

いつもを、いつまでも。



新薬を、
笑顔で、
ともに未来へ。

COMPANY PROFILE

2024

私たちは人びとの健康を高め
満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。

どんなに医学が進んでも、治療法のない病気に苦しむ人びとが
世界にはまだたくさんいます。最善の治療を模索する患者さんやご家族
そして医療関係者にとって、革新的な新薬は明日への勇気につながります。
私たちは、病気に悩む患者さんやご家族、そして健康な生活者、
全ての人びとが満ち足りた笑顔あふれる未来のために、
治療から未病や予防までを見つめ、これからも革新的な新薬の創出を目指します。

新薬を、笑顔を、ともに未来へ。

理念について ▶



<https://www.taiho.co.jp/company/philosophy/>

大鵬薬品ストーリーについて ▶



<https://www.taiho.co.jp/company/story/>



大鵬薬品の歩み

1960～1970年代

創業

1963年
代理店49社の出資の下、
大鵬薬品工業株式会社
を設立



医療用医薬品



1969年
「フトラフル」の導入
を契約
がん領域での研究
開発を開始

1980～2000年代

抗がん剤メーカーとしての地位確立



1984年
「ユ-エフティ」
発売



2010年
「アブラキサシ」
発売



1999年
「ティーエスワン」発売

2010年代～

グローバルなどの新たな市場への進出



2014年
「ロンサーフ」発売

2015年
「ロンサーフ」の海外展開開始。
現在、世界100以上の国と地
域にて承認



2023年
「リトゴビ」
米（2022年）・日・欧で承認



2024年
がんの治療と仕事の両立に関
する教育サービス「アリルジュ」
の販売を開始

コンシューマーヘルスケア

1964年
「チオピタ
ドリンク」
発売



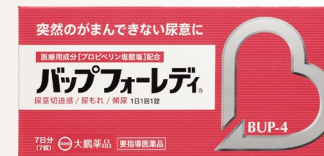
1979年
「ソルマック」発売



2001年
「ハルンケア」発売



2017年
「ピタスのどトローチ」を発売

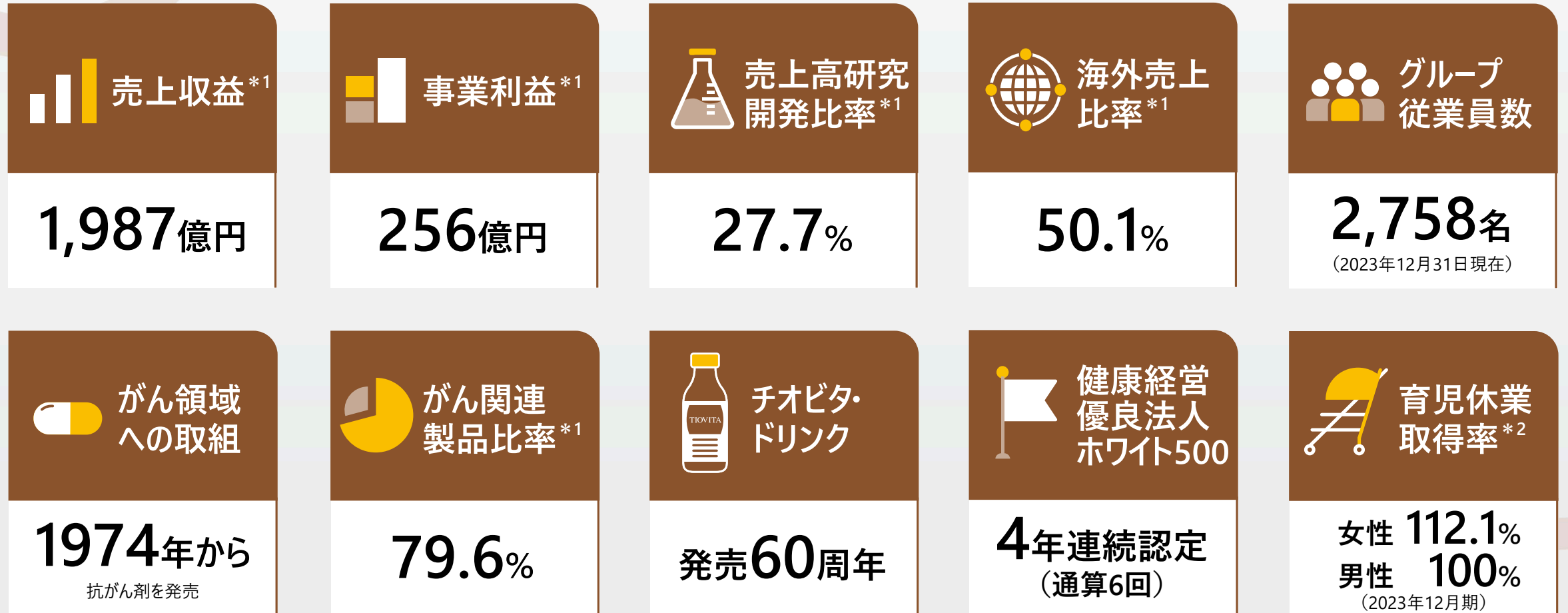


2021年
スイッチOTC「バップフォーレディ」発売



数字で見る大鵬薬品

大鵬薬品は、医療用医薬品事業とコンシューマーヘルスケア事業の2つの事業を展開しています。



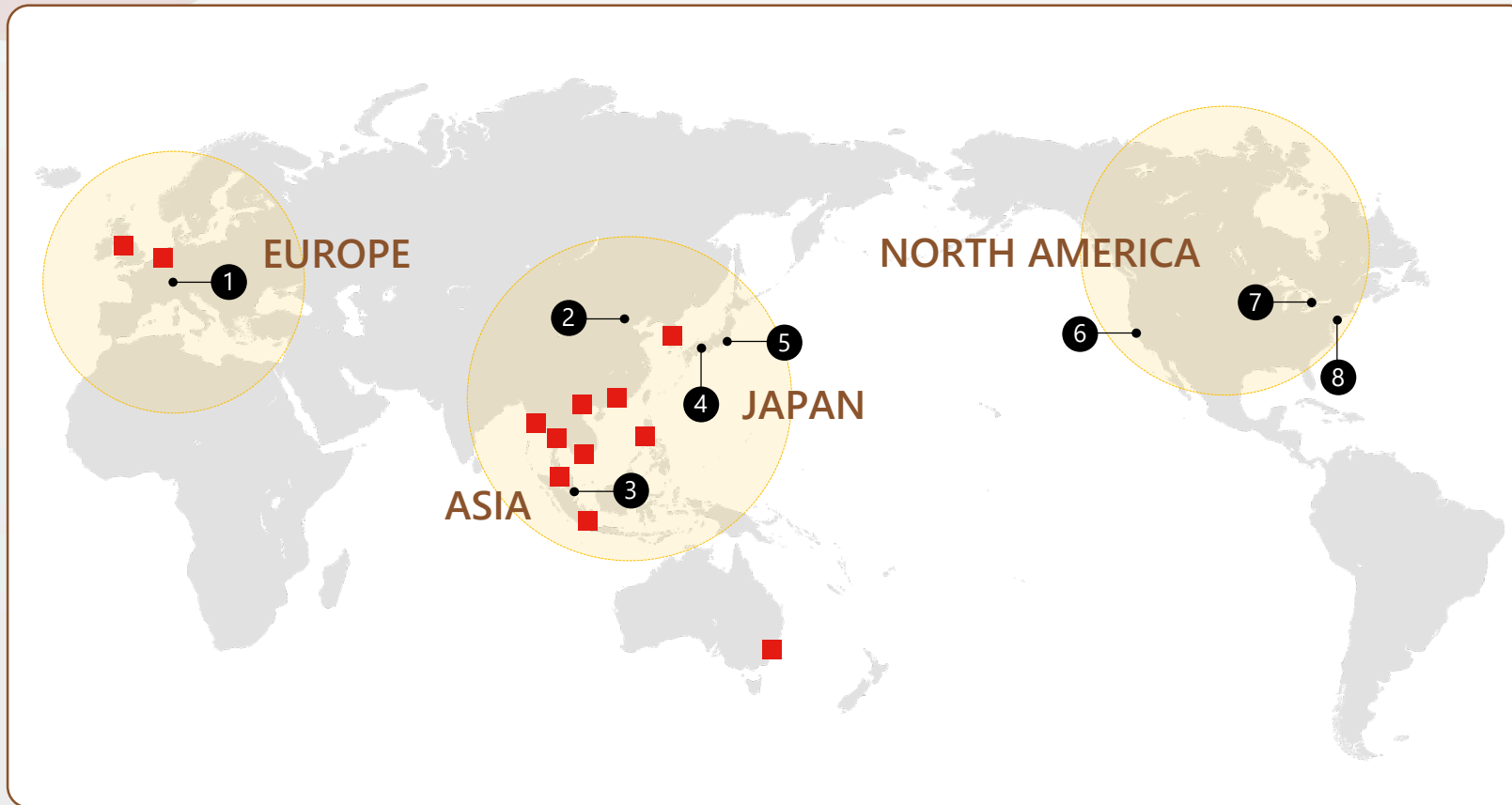
*1 連結ベース（2023年12月31日現在）。

*2 2023年12月期に子が生まれた人数を分母とし、育児休業を開始した人数を分子とする。前年に出産し2023年から育児休業を開始した社員を含む。男性の場合、短期間の育児休業取得者も含む。



グローバル化

世界から信頼されるスペシャリティファーマになることを目指し、大鵬薬品は米国・欧州・アジアなどの関係会社と協働しながら創薬分野における研究開発を推進。2024年3月時点で世界16カ国に拠点を置いています。



■ その他の活動拠点

主な関係会社

- 1 欧州における医薬品の臨床開発・販売
TAIHO ONCOLOGY EUROPE GMBH
- 2 中国の医薬品臨床開発・情報提供活動
大鵬薬品信息咨询(北京)有限公司
- 3 アジア太平洋地域における販売・事業・MA活動
TAIHO PHARMA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- 4 国内の医薬品、医薬部外品等の研究開発・製造・販売
岡山大鵬薬品株式会社
- 5 国内スタートアップのインキュベーションおよび投資
大鵬イノベーションズ合同会社
- 6 革新的な治療創製を支援するベンチャー投資
TAIHO VENTURES, LLC
- 7 カナダにおける医薬品の販売
TAIHO PHARMA CANADA, INC.
- 8 医薬品のグローバル臨床開発と米国における販売
TAIHO ONCOLOGY, INC.



2つの事業 医療用医薬品事業

～患者さんの生活の質を高め がん治療の未来を拓く～

創業初期の1960年代より手掛ける抗がん剤などの医療用医薬品。「フトラフル」を1974年に発売したことを皮切りに、次々と新薬を世に送り出してきました。中でも「ロンサーフ」は日本発の新薬として世界100以上の国と地域で販売しています。近年では、新たな創薬プラットフォームによる独創的な新薬の研究開発を行い、がん領域を中心に多くの新薬候補を生み出しています。一方、チーム医療を支える高度な情報提供能力を駆使し、患者さん一人一人の最適な治療に貢献できるよう育薬にも力を入れています。

大鵬薬品の医療用医薬品事業について



創薬

新薬候補となる化合物を探索し、さまざまな試験で有効性と安全性の評価を行うこと



育薬

発売された後も多くの患者さんに実際に使われていく中で、安全性や有効性が繰り返しチェックされ、より安心できる薬へと育てていくこと



医療用医薬品事業について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/business/marketing/medical/>



独自の創薬プラットフォームを主軸に、革新的な新薬を生み出す創薬力が大鵬薬品の強みです。大塚グループの中では主に「がん領域」を担い、脳転移やRAS遺伝子変異を伴うがんなど、難治性がんの治療薬創製に挑戦。がん研究で培った技術を応用し、「免疫関連疾患」の創薬研究も推進しています。

革新的な 新薬創出

重点領域



がん



免疫
関連疾患

自社創薬
プラットフォーム

ベンチャー企業や
スタートアップの
技術・創薬シーズ

アカデミアや
他社との
アライアンス

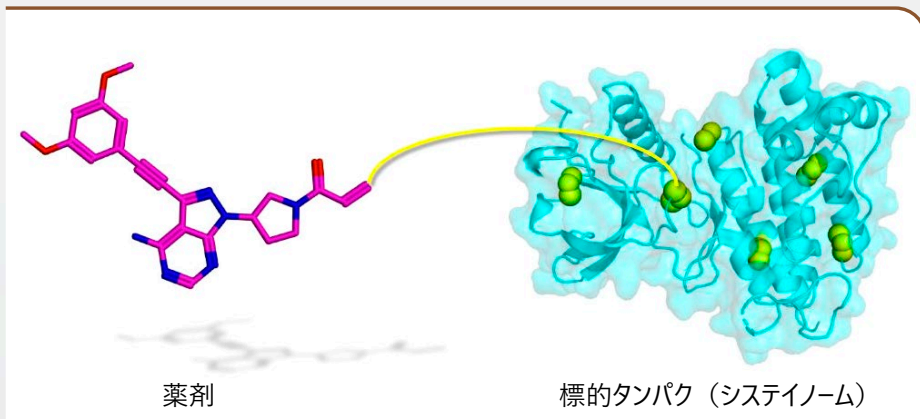
自社技術の補完と研究開発の加速を目指して国内外の研究機関と協働、さらにバイオベンチャー企業やアカデミア（大学・研究機関）と独自のネットワークを構築し、最先端の技術や創薬シーズの獲得に取り組んでいます。





大鵬薬品では、創薬プラットフォームの整備と拡充に力を入れ、国際的評価も高い独自の「システイノミクス創薬」から創製された「フチバチニブ」が2022年に米国、2023年に日・欧で承認されるなど、これらプラットフォームを柱に数多くの開発パイプライン創製に成功しています。また、専門分野に関する豊富な知識や経験を持つ研究員同士の緊密な連携が、大鵬薬品の誇る高い自社創薬率を支えています。

システイノミクス創薬とは



「システイノミクス創薬」とは標的タンパクのシステイン基に薬剤を共有結合させ、強固な結合と高い標的選択性を可能とした大鵬薬品独自の創薬技術。この技術により毒性の低減などの臨床メリットが期待できます。

創薬プラットフォームと専門性の融合で高い自社創薬率



自社創薬品

14品目 (約63%)

(2023年度末時点)





大鵬薬品は2つのCVCを通じて、独創的な創薬シーズや革新的な創薬技術を持つ世界のベンチャー企業およびアカデミアへの積極的な投資と支援を行っています。

設立の目的

- 最先端創薬技術およびアセット（新規医薬品およびその候補品）への早期アクセス
- 投資を通じた事業提携・オープンイノベーションによる創薬推進
- 大学の基礎研究に基づくベンチャー設立支援

2つのコーポレートベンチャーキャピタル (CVC)

アメリカ 2016年設立



日本 2019年設立



CVCの役割

「Taiho Ventures, LLC」は、オンコロジー領域の創薬を中心に投資を行い、革新的なイノベーションにアクセスし、さらなる創薬力の強化を図っています

「大鵬イノベーションズ合同会社」は、国内の医療関連領域、コンシューマーヘルスケア領域に加え、異業種との連携による新たなヘルスケア領域において、法人設立検討段階を含む早期ステージからの共創を目的に投資を行っています





大鵬薬品はアカデミアと連携、他社や公的研究機関との協業や業務提携により研究開発のスピードアップを図り、革新的な新薬の創出に挑戦しています。

アカデミアとの連携

高度な研究レベルのアカデミアと連携することで専門的な知見を共有し、創薬技術を高めています。また臨床ニーズを捉えた創薬を考える切り口や人財育成などにもつながっています。これらのメリットを生かし、難治性がんに対する治療薬などの臨床ニーズに応える創薬研究に取り組んでいます。



他社や公的研究機関との協業により、高度な専門性や研究リソースの活用が可能となり、がん領域を中心としたグローバルな研究、開発、商業化を加速しています。また自社創薬とのシナジーによって次世代に向けた革新的新薬の研究開発の可能性を広げています。

他社や公的研究機関との協業



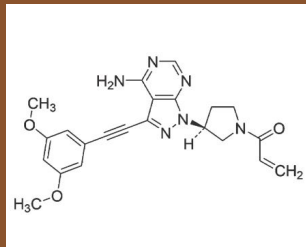
医薬品を創り出す製薬技術研究（CMC*1）について

～原薬・製剤の研究開発と品質確保を担う～

製薬技術研究は、創薬研究（創薬）と臨床開発（治験）、商用生産（医療現場への供給）をつなぐ、医薬品を創り出すうえで、なくてはならない大切な存在です。創薬研究で見つけた新薬候補を治験薬に創りあげる「CMC研究」、医療現場で使用する医薬品の商用の製法を確立する「生産技術」、商用製造された医薬品が確かな品質を備えていることを管理する「品質管理」といった、新薬創製から医療現場への供給まで一連の重要な工程を担っています。経口固形製剤は生産プラットフォームを内製化*2し、高い品質の確保と安定供給に努めています。

*1 CMC：Chemistry, Manufacturing and Control *2 外部委託製造も戦略的に活用しています

創薬研究で
見つけた
「新薬候補」



前臨床から商用までの高活性・グローバル対応「プラットフォーム」を完備

2つの事業 コンシューマーヘルスケア事業

～生活者の健康で愛情豊かな暮らしのために～

薬局・薬店、ドラッグストアで購入できるOTC（Over The Counter）医薬品などの販売をしているコンシューマーヘルスケア事業は、常に生活者中心に物事を考え、生活者に選ばれ続けるブランドづくりに挑戦しています。生活者の健康で愛情豊かな暮らしのために、地域性を大切にきめ細かい提案を行い、生活者の健康づくりに貢献しています。



▶ コンシューマーヘルスケア事業について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/business/marketing/healthcare/>



生産拠点

主力工場である徳島工場を筆頭に、北島、埼玉、犬山の計4工場が連携しながら生産を行っています。いずれの工場もGMP*1基準を順守する万全な品質管理を実施。中でも北島、埼玉工場はFDA*2をはじめとした海外当局査察を経た国際水準を満たしており、徳島工場においても海外取引先からのGMP要求基準を満たしています。生命に関わる医薬品を安定供給する責務として災害などに備えた対策も行い、抗がん剤の供給については事業継続マネジメントの国際規格「ISO22301」を取得しています。

*1 GMP : Good Manufacturing Practice (医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理に関する基準)

*2 FDA : Food and Drug Administration (アメリカ食品医薬品局)

徳島工場

さまざまな剤形の医薬品・
医薬部外品を製造

埼玉工場

医薬品に使われる原薬
を製造

北島工場

グローバル生産拠点として
抗がん剤を製造

犬山工場

生薬製剤に使われる
原料を製造



生産拠点について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/business/production/>



医療用医薬品



抗悪性腫瘍剤 **ロンサーフ®**



代謝拮抗剤 **ティーエスワン®**



抗悪性腫瘍剤 **リトゴビ®**



抗悪性腫瘍剤 **アブラキサン®**



選択的NK₁受容体拮抗型制吐剤 **アロカリス®**



アレルギー性疾患治療剤 **ビラノア®**

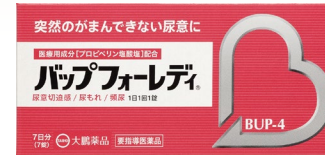
コンシューマーヘルスケア商品



ビタミン含有保健剤 **チオビタ®・ドリンク**



健胃清涼剤 **ソルマック®5**



過活動膀胱治療薬 **バップフォーレディ®**



生薬製剤/
軽い尿もれ・
頻尿用薬
ハルンケア®
内服液



口腔咽喉薬
ピタス®のどトローチシリーズ



鎮咳去痰薬
ピタス®せきトローチ

医療用医薬品について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/products/>



コンシューマーヘルスケア商品について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/products/>



大鵬薬品は社員一人一人が心身ともに健康で生き活きと、自由闊達に働ける職場環境を目指しています。全社員が一丸となって健康維持と増進に取り組み、会社の生産性や業績の向上、イノベーションの創出や社会への貢献を目指した多様な活動を展開。そうした活動が評価され、2024年も「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されました。



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

心身の健康 サポート

人間ドックや歯科検診など各種健診への費用補助などを実施



生活習慣・ 運動習慣サポート

運動アプリを用いたNew Style運動会などの運動イベントを開催



治療と仕事 の両立支援

がんに罹患した社員の就労支援など、治療と仕事の両立支援を推進



卒煙推進

2020年より卒煙施策を開始し、2023年は全社喫煙率0.3%を達成



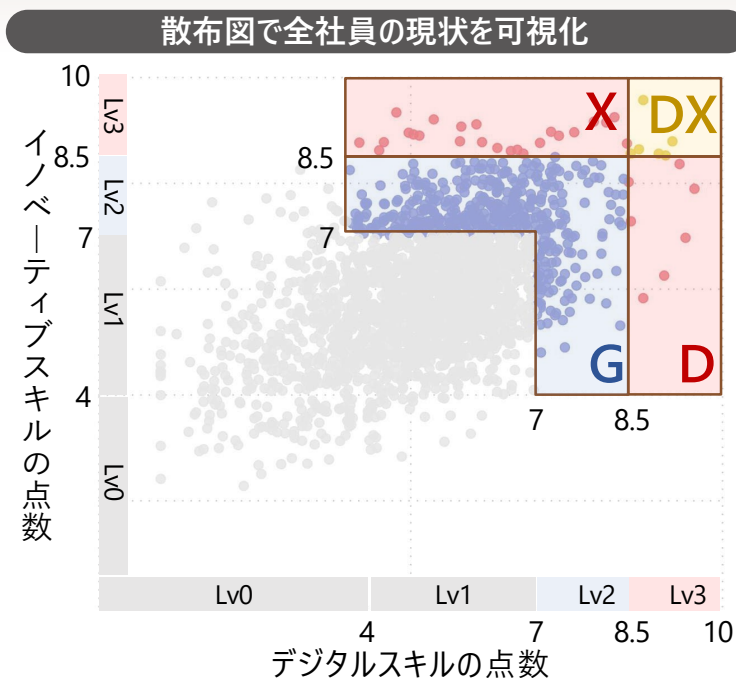
有休取得推進

有休の取得を推進し、2023年は有休取得率80%以上を達成



高い倫理観や多角的な視野を持ち、新しいことに果敢に挑戦する「人財」を育成するため、大鵬薬品では新入社員研修をはじめとする階層別研修や、部門別でのOJT、専門研修など各種多様な育成プログラムを整えています。2023年はこれからの経営環境の変化を考慮しDX人財の育成・推進に注力すべく、全社員がDXアセスメントを受検しました。また全社員の約7割にあたる希望者がeラーニングを受講し、マインドの醸成とリテラシーの獲得に努めています。DX関連イベントなども定期的には開催しています。

全社員（2,345人）DXアセスメントの結果



- DX人財** D人財とX人財の両方の素養を持ち合わせた人財
- D人財** デジタルを導入する人財
- X人財** 変革を企画する人財
- G人財** デジタルを使いこなす人財

| | | | |
|----------|------|-----------|----|
| X | 24人 | DX | 6人 |
| G | 447人 | D | 7人 |
| 他 1,861人 | | | |

➤➤➤ 2割の社員がDXGのいずれかに該当



企業理念の実現に向け、社員それぞれの成長機会を大切にしている大鵬薬品では「キャリアデザインシート」を用いて、未来のキャリアについて上司とオープンに語り合う「キャリア対話」を実施しています。また、社内のキャリアコンサルタント有資格者による「キャリア相談」も可能。社内でも好評を博した他部署の業務を知ることができるオンライン社内交流プログラム「バーチャル部門訪問」が2023年に本格的に始動するなど、キャリア展開に関しても風通しのよい風土が魅力の一つです。

キャリアデザイン支援

キャリアデザインシート

自らをふりかえり、
これからの
キャリアを考える

キャリア対話

未来のキャリアについて
上司とオープンに
語り合う

キャリアデザイン ハンドブック

キャリアの考え方や
自己探索を
深めるヒントを掲載

キャリア相談

有資格者による
キャリア
コンサルティング

キャリアセミナー

キャリアの
セルフマネジメントを
学ぶ

バーチャル部門訪問

- 他部署を理解し、業務連携を深める
- 社員がつながる「場」をつくる
- 視野を広げ、キャリア自律を促進する

自部署の
役割・魅力
発信



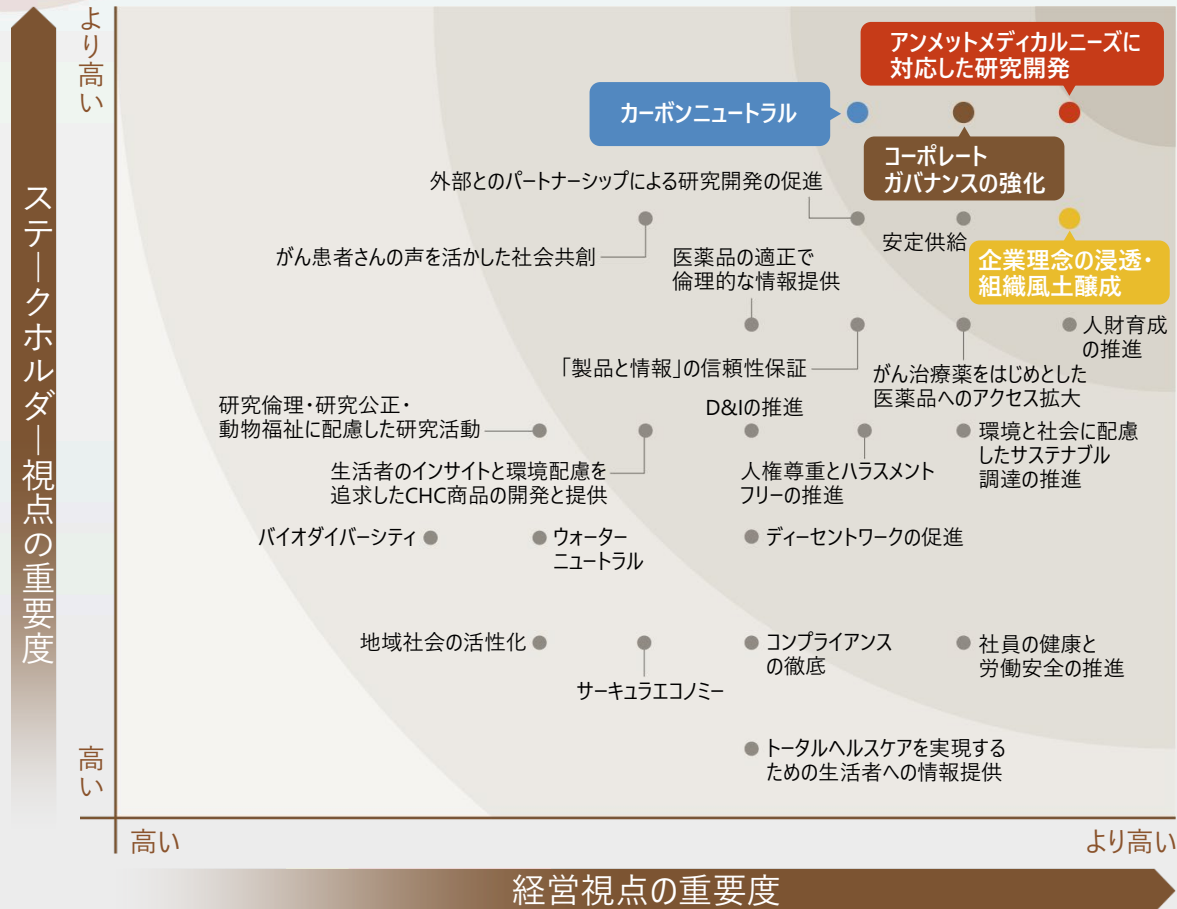
他部署の理解・視野拡大



大鵬薬品のマテリアリティ（重要課題）

大鵬薬品が取り組む社会課題を経営視点とステークホルダー視点で評価し、重要度の高いものをマテリアリティとして特定しました。
 これらのマテリアリティと中長期の成長戦略を一体化させてサステナブルな事業を推進すると同時に、事業を通じて社会課題を解決していきます。


大鵬薬品が取り組む社会課題の重要度マップ



マテリアリティ（重要課題）

- アンメットメディカルニーズに対応した研究開発
- コーポレートガバナンスの強化
- 企業理念の浸透・組織風土醸成
- カーボンニュートラル

事業を通じて社会課題を解決し、「いつもを、いつまでも。」を支える




マテリアリティ（重要課題）と貢献するSDGs・戦略

マテリアリティ（重要課題）

アンメットメディカル
ニーズに対応した
研究開発



コーポレート
ガバナンスの強化



企業理念の
浸透・組織風土
醸成



カーボンニュートラル



戦略

がん領域を中心としたアンメットメディカルニーズの充足に貢献し、世界中の患者さんに新薬と笑顔を届けるため、大鵬独自の創薬技術を主軸に研究・開発を推進し、バイオベンチャーへの投資やアカデミアとの連携を通じて、自社でアクセスが難しいモダリティや最先端のアイデア・技術を取り入れ、イノベーションを創出します。そして、大鵬薬品は、これからも革新的な新薬とソリューションを提供し続けます。

グローバルで事業環境が大きく変化するなか、信頼性保証・品質保証や安定供給などの経営リスクを低減するため、機能軸毎の連携・つながりを深め、リスクマネジメントを通じて、重要リスクが機能軸毎に共有・管理される体制を構築します。そして、大鵬薬品は、コーポレートガバナンス体制を継続的に見直し、強化します。

多様な価値観・意見・経験を掛けあわせ、イノベーションを起こす生命関連企業であり続けるため、ステークホルダーと対話し、すべきことを考え、行動する大鵬マインド・行動規範を浸透・継承します。そして、大鵬薬品は、社会の変化を成長の糧にでき、文化・人種・ジェンダー・病など一人一人の違いや人権を尊重できる人財を育成します。

気候変動に伴う自然災害や社会問題のリスクを低減するため、脱炭素につながる施策の実施や環境配慮型資材の導入などを行います。そして、大鵬薬品は、パリ協定で定められた国際的な目標・指標に基づいた事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにするという大塚グループ2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を目指します。



いつもを、いつまでも。

あたり前のようにつづく毎日ほど、

かけがえのないものはない。

私たちは、“いつも”を支える力になりたい。

大切な“いつも”が失われた時、

強く取り戻す力を届けたい。

いつもを、いつまでも。

私たち大鵬薬品ひとりひとりの願いです。



| 会社名 | 大鵬薬品工業株式会社 |
|-------|--|
| 設立 | 1963年（昭和38年）6月1日 |
| 資本金 | 2億円 |
| 代表者 | 代表取締役社長 小林 将之 |
| 従業員数 | 2,159名 （単体、2023年12月31日現在） |
| 売上高 | 1,673億円 （単体、2023年12月期） |
| 事業所 | 本社／東京 支店／全国12支店 出張所、事業所／全国50カ所 工場／全国4カ所 研究所／つくば（茨城）、徳島 |
| 本社所在地 | 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27 TEL 03-3294-4527 |
| 事業内容 | 医薬品、医薬部外品、医療機器、食料品、日用品雑貨などの製造、販売及び輸出入 |



大塚グループ企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide
 世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する



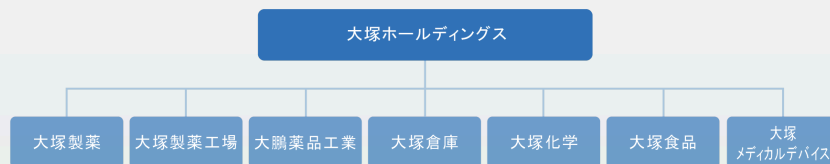
概要

大塚グループは、1921年に創業し、世界の人々の健康への貢献を目的に、疾病の診断から治療までを担う「医療関連事業」と日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ*1 関連事業」の2本柱で事業を展開しています。歴代の経営者が育んできた「流汗悟道」「実証」「創造性」という大塚の伝統を受け継ぎ、現在では世界32カ国・地域、168社で約34,000人*2の社員が、大塚らしいユニークな製品・サービスを提供し続けるため活動を行っています。

*1. ニュートラシューティカルズ: Nutraceuticals = nutrition (栄養) + pharmaceuticals (医薬品)

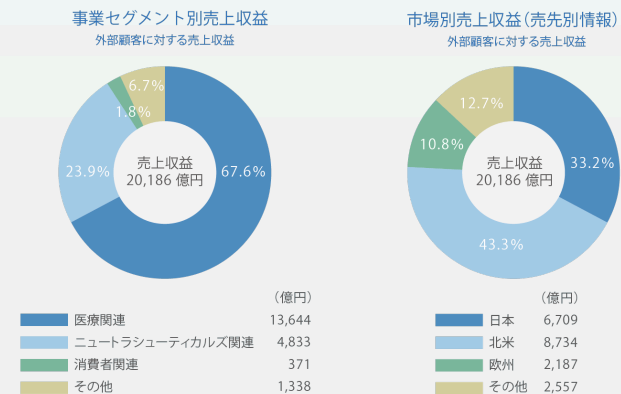
*2. 2023年12月末現在。大塚ホールディングスおよびその連結子会社

グループ構成



| | |
|---------------|--|
| 会社名 | 大塚ホールディングス株式会社 (Otsuka Holdings Co., Ltd.) |
| 設立 | 2008年7月8日 |
| 代表取締役社長 兼 CEO | 樋口 達夫 (ひぐち たつお) |
| 資本金 | 816 億90 百万円 |
| 本社 | 東京都千代田区神田司町 2-9 |
| 事業内容 | グループの経営戦略、管理ならびに事業専門サービスの提供 |

財務内容
(2023 年度)



サステナビリティミッション

大塚グループは、企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現を目指します。そのため、最適なガバナンス体制を土台として社会と地球の健康に貢献する各活動目標の達成に取り組みます。

サステナブルな社会の実現に貢献

大塚の事業活動 = 社会課題の解決
 Otsuka-people creating new products for better health worldwide



社会【社会の健康】
健康 人材 品質



環境【地球の健康】
カーボンニュートラル サークラーエコノミー
ウォーターニュートラル



ガバナンス
コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント

